

空とほすど誰な益た出校持つが母る強ななでとさをせすられに  
 図自をつど田。かのんのめしのためしのかはいい家いせ見なる農れた島つ海  
 書分眺てに舎。で助だここに「図なそかはらが出。をうるせい（家た私のい第  
 室つめ心深の、けよと働老書かうに、每当来家長飛親。な。本の「とは農て二  
 さて、をく夜父も「ばきいた室つ思理昭晩たなが男びの高い家や後、「文の干の  
 え何問許濃のはあなかなたでたう不和のりく傾が出方校。で雑を継  
 もだ答せい闇毎りどりさを母読私の尽三よ前てけ中す針に学勉誌をが  
 なろするのほ晩まと考いと見だ、すこ年にとな世にで、出かし読せ  
 かうる唯で、のせ口えと舞中躑がと代聞いら間な「物さなら先心な祖ついとけい  
 った。命。このがさう。えはい返。藤うのるとれうがいいをいとけい  
 中。だ明、に酒方しけさも樹うの情の。てな、もと泣た言農な。は、情  
 学。校。の。救。い。あ。上。も。を。村。の。い。自。ら。ど。に。手。と。ら。し。得。く。な。立。て。ら。る。手。広。才。報。を。遮。断。  
 校。の。廃。棄。物。倉。庫。の。星。に。い。ま。り、え。利。の。ち。学。も。な。れ、。来。勉。か。け。歳。を。界。か。断。

有森信二

見 十内をす表をな編を十 十ンり も十る 文でで が  
え海四容目「す発り集立人し年バ行そ忘人ほ海学は、海拋前  
て第号を指とる行、作て足かの「くのれ近どと賞一福はり置  
い二「公すい「、し平業、らし六が者激ていのいを応岡昭所き  
た期ま開「う「ま成二「のの和とが  
のはですと目到し二十「  
で、をるい標達た。一年に創刊号（通巻六十八号）  
す海発もうをす。海第二「  
が第行の方掲「、二期は「  
小期てしの、一期は「  
説のい、もさ生涯「  
の中ま現とら現「  
方期す「H「役現「  
にか。七P開「、  
多ら（もか「  
くも通作れ山「  
比傾巻成たを「  
重向七し誌移

い三誰な 日を鮮 つやで  
ま島もど三課中烈明息子、  
ま由がを十と心さ治吹規偶  
、紀理ま年なにに期のや然  
現夫解と前「、打の鮮藤「  
在らしもか「、  
にのてにら二十「  
至作い収は小年「  
り品るめ説「  
まに答てい「  
た「のい「  
。とスい「  
もト無「  
にエ知「  
触フ故「  
れスも「  
もキあ「  
し「り学「  
なや、問。

を組門 ま 道同て吹す主 りく岡置  
 評 詩閉んを最す関な `いき：宰不高 `をい  
 論 じで中後よ係研そき飛：で安ま少始た  
 さき心にう各鑽れたば °ははっ人め内  
 六上織せたに `よ位にぞいししなとて数 `容  
 百野坂て先 `海ろに励れと `かくいいな全に  
 田眞幸い輩生第しはんがの今しとえるが国な  
 幸子治た諸涯一く `でそ強や `もぼとら誌つ  
 夫 ` `だ氏を期お引おれい `手一 `のも等て  
 (「海 荒 月 黄 岡 村 葉 郎 柿 添 元 山 武 子 要 `  
 第 二 期 杉 山 武 子 要 ` 発 行 責 任 者 )  
 きのかに願きりぞ意全練応文手 `でお  
 た数けあい続まれ欲国のの学応同もり  
 い名てっ申きすのがの書顔オえ人紹 `  
 との文てし ` °目あ高きとンを個介幸  
 思名学 `上御 標り名手なチ感々さい  
 いを・詩げ指 をま誌がつにじのれな  
 `ま記文やる導 設すにそて近て意ること  
 すし芸評次等 定 °肩のいいい欲こと  
 ° `に論第を し同を心る私まはとに  
 本取ので賜 `人並配点がすかが `  
 ` 稿り部すり 地一べをで ` °な多福